

2003年7月

JSAT 株式会社 営業本部企画・開発部
茂成奈央

初めて「宇宙」の存在を知ったのはいつ頃だったのだろうか。小さい頃、『今見えている星は、もう存在しないかもしれないんだよ。』と言われても、その言葉の意味する広大さが理解できなかった。小学生の時、ハレー彗星が地球に大接近するというので、父親に連れられて初めて望遠鏡で星を見た。何色とも表現し難い神秘的な美しさに感動したことをかすかに覚えているが、『次にハレー彗星を見ることが出来るのは、60年後なんだよ。』という言葉も何だか想像がつかなかった。「もしかしたら人間は宇宙という金魚鉢の中にいる金魚みたいなもので、巨大な何者かに飼われているのではないか？自分の人生も何者かによって気軽に観察されているのではないか？」などと、自宅の金魚を眺めながら空想していた。中学生になるとホーキンス博士による宇宙誕生説を読み、難解ではあったものの、余りにも謎めいた宇宙の存在に改めて深い興味を覚えた。と同時に、人間が宇宙の謎を解き明かそうとすることが、とても畏れ多いことのように感じた。私にとって宇宙とは、いつも果てしなく大きく、どんなに想像しても飽きることのない存在であった。



著者 JSAT 本社にて

しかしながら、その後私は「生き物」の世界に興味を持ち、大学では「生物学」を専攻し、宇宙の広大さとはまったくかけ離れたミクロの世界に没頭する毎日を送っていた。したがって、JSAT という衛星通信会社に入社するまで、衛星はおろか通信に関する知識はまったく無かつ

たのである。では、生物学科出身の私がなぜ JSAT を選んだのか？この質問は、今まで実に沢山の方々から数多く頂戴してきた。現代の就職活動というのは、時に本人の予期せぬ素晴らしい出会いを与えてくれるものだと思う。インターネットの膨大な情報の中から、当社の「宇宙」という文字を見つけたとき、迷わず応募を決意したのだ。

そんな私が JSAT に入社してから早 2 年が経過した。当社は、現在 7 つの静止軌道の上にバックアップ機を含めて 8 機の衛星を保有・運用する、アジアでは最大の衛星通信事業者である。今年後半には、米国上空にも新しく衛星を打ち上げる予定であり、8 軌道 9 機体制



となる日も近い。主なサービスは、放送、NTT の運用受託業務、国内外の通信サービスである。当社の衛星は、横浜にある衛星管制センターにて 24 時間 365 日体制で運用されている。また、地震などの災害に備え、群馬県にバックアップセンターを保有している。残念ながら当社の知名度は世間一般的にはまだまだ低く、友人に会社名や事業内容を伝えてもなかなか理解してもらえないのだが、そんな時「スカパー！」と言えば、大抵の場合は分かってもらえる。

私は入社当時は開発本部事業開発部に所属し、現在は営業本部企画・開発部に所属しているのだが、入社以来ずっと当社の衛星ビジネスの新規事業開発に携わってきた。当社は地球規模（宇宙規模？）でサービスを展開しているが、社員数は 200 人程度と決して大きな会社ではない。そのため、一人一人の存在や役割というのは非常に大きく、新人であっても様々な活躍の場を与えられる。私自身も、海外衛星通信事業者とコンテンツ配信実験、新しい衛星アプリケーションの検証実験、宇宙ビジネスの検討、はたまた出資の検討など、これまで様々な業務に取り組んできた。日本国内はもちろん海外とのやり取りも非常に多いため、当然失敗の数もきりが無いのだが、衛星を通じて、これまでに色んな経験や出会いをさせてもらった。これまでの 2 年間は、衛星がどんな風に人々のお役に立っているのか？を勉強させて頂いてきたように思う。



JSAT 衛星モデルと筆者

世の中には、まだまだ通信環境の整備が充分でなく、情報収集手段やコミュニケーション手段として衛星が必要とされているケースが多い。一人でも多くの方に、より気軽に、より快適に、衛星を通じて大切なコミュニケーションを取っていただけるように頑張っていきたい。また更に、これから衛星にどのような役割が求められるのか？また、JSATとして、そのようなニーズにどのようにお答えできるのか？を常に考えながら業務に取り組んでいこうと思う。